



そ、そんなに見つめないでください…。

恥ずかしくて顔から火が出そう…。

はぁ  
はぁ  
ちゃほ  
はぁ

ふっつかものですがよろしくお願いします

様々な経緯の後  
俺と千反田は  
付き合う事になった

そして、さらに様々な経緯の後  
俺と千反田は  
セックスする事になった…。  
省エネとは真逆の行為である

こ、これが  
折木さんのペニス…  
さ、触っても  
いいですか？

どきどき

どきどき

さすがと言うべきか…

こーいう状況でも  
千反田の好奇心は  
ブレる事がない

ちゃんと  
勉強して  
来ました！

見たんです！  
折木さんが  
射精する瞬間を  
この目で！

こいつは何を言ってるんだ！

うお…千反田の手…  
冷たくて柔らかで…  
ああ…頭が真っ白になってく…う



うそだろ！  
口で受け止めて  
くれるなんて……う

びゅ

びゅ

びゅ

私……覚悟してきました  
折木さんの  
女にしてください……う

千反田の……  
千反田の顔が……  
俺の精子で真っ白に……う

ふんやあ

しほあ

サーモンピンクに染まる膣壁を見た瞬間  
萎えかけていたペニスが一瞬で復活する

あ、でも  
避妊はして欲しいです

私たちがまだ高校生だし…

今日はちよつと  
危ない日ですから…

必ず…必ず  
外に出してくださいね

一刻も早く千反田の肉に入りたいつ！  
千反田の心と体に、俺を刻みつけたいつ！

はぁ  
はぁ  
はぁ

どき

しゅんしゅん

あ…あつ！

は、入って来ます！  
折木さんが…  
折木さんのペニス  
挿入して来ますつ！

ひん

しゃん

いた...

痛いっ!

あ...

さ、裂けるっ  
裂けちやいますっ!

ぶる

ぶる

ぶる

くくくく

こ、これが女の子の...  
千反田の膣内...っ!  
ひ、引きずり込まれる...っ!

だ、だめっ

中は  
駄目ッ!

抜いてくださいっ

抜いて...あうっ!

どうして...いつは  
俺の考えが解るんだ?  
い、一ミリも動かしてないのに...っ  
ああ...もう限界...っ!



で…  
出ちやいましたね…  
いえ、いいんです  
私も望んでいた  
事ですから…

俺の全てを…ありったけを  
びゆくびゆくと打ち込んでいく  
愛おしくてたまらない…

はあ  
はあ

はあ

こんなに射精したのに  
まだまだ射精し足りない  
もっともっと千反田を犯したいっ！

はあ

はあ

はあ





か、角度は  
このくらいでいいですか？

脳髓が蕩けそうな鳴き声……  
あー……至福だ……  
ずっと……ずっと聞いていたい……  
ずっと……千反田の中に居たい……

ぬる

……

ん！

あ

ちゅん

ぼん  
ぼん

ぼん

ぶるん

んん

あ



でも駄目っ  
精子出ちまうっ！  
一秒でも長く留まりたいのに  
精子出ちまうっ！  
ああ……キモチイイ……ッ



放出した後の虚脱感…  
とんでもない事を  
してしまった気がする…  
しかし、もう後の祭りだ  
危ない日だって言ってたよな…



あ！  
いま蹴りましたよ  
奉太郎さんっ！

うん！

